

会報

道南

平成15年
新年号

「ふるさと会」を考える

会長 田沼修二

道南会は平成十三年に創立四十周年を迎え、昨年中に記念行事をすべて終了することができました。これは会員の皆様や函館市の関係の方々のご尽力によるものと心から感謝しております。

北海道には道南会を始めとして八十をこえる「ふるさと会」があり、その活動はさまざまです。年に一回総会を開き懇親会に移って旧交を暖め、名簿を作り会報を配るといったのが一般的ようです。このほか郷土訪問などを積極的にこなしている「ふるさと会」もあります。こういう活動は全国の多くの「ふるさと会」に共通しているようです。もともと「ふるさと会」は郷里を同じくする人々の集まりというだけで、定期的な会を開いて思い出を語り合い、親睦を深めるだけで良いのかも知れません。

戦後の急激な経済の変化の中で、好むと好まざるとに関らず、故郷を離れて首都圏に住むようになった同郷人の間から自然的に「ふるさと会」が生れた事

情から見れば当然のことと言えましょう。

これに対し道南会はやや異なる活動を展開してきました。すなわち年二回の全員参加の総会と懇親会を開催するほか、毎月一回、見学会、お花見、ハイキングなどの月例行事を継続的に行ない、会報を定期的に年二回発行して、故郷の情報を伝えたり、会の行事などを報告しております。これによって故郷の情報が入手し易くなったり、同郷人の動向が見える上に、さらには友人が増えるなどの利点が生れてきています。

首都圏に住んで地域社会と結びついた日常生活だけでは満たされない郷愁を癒すものとして「ふるさと会」が存在する余地があり、道南会の活動は、それに応えようとするものです。町内会の集まりと一味違う話題で、楽しいひとときを共にしながら郷里の思い出にひたる。月一回くらいが適当な間隔といえましょう。道南会としては、このような今までの活動に加えて、故郷に関係の深い各種団体

との交流を深め、故郷との精神的な距離を更に近付けることを考えてゆきたいと思えます。

今年の道南会の仕事の一つとして「はこだて観光大使」の方々や、各同窓会の方々と交流に取り組み、首都圏でのネットワークを強化し、あわせて郷里との交流のルートを複線化して活性化を目指したいと願っております。会員の皆様の一層のご支援と、あわせて積極的な提案を期待いたします。

はこだてクリスマス

ファンタジー

十二月一日～二十五日 開催

函館の冬の彩る一大イベントとして定着した「はこだてクリスマスファンタジー」。五回目となった今回も姉妹都市のカナダハリファックス市から寄贈された幸せを呼ぶ「巨大木の木」が約一万八千軒の距離を越えてやってきました。異国情緒にあふれ、港と夜景の美しい街函館には、雪景色に映えるクリスマスツリーがよく似合います。

今回のクリスマスファンタジーも、いろいろなイベントが用意され多くの人に感動を与えてくれました。

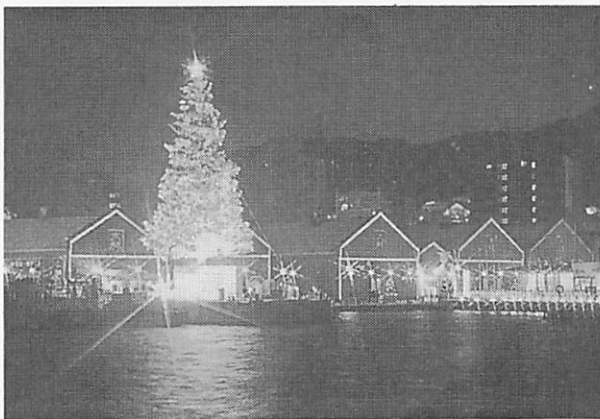
主なイベントを紹介しますと、
▽十二月一日(日) 十八時 巨大ツリーがサンタの魔法で輝きます。

▽二日(月) 二十五日(水) 毎夜十八時からツリー点火と花火打ち上げ。
▽二日～二十日(金) 二十五日
サンタやトナカイ達と一緒に踊る。

▽十三日(金) 十八時三十分 幼稚園児たちによるクリスマスコンサート。

▽二十四日(火) 十八時三十分 夜空を彩る、まばゆいばかりの冬の花火。

▽二十五日二十時～二十時三十分 感動のファイナル。静かに灯りが消える。

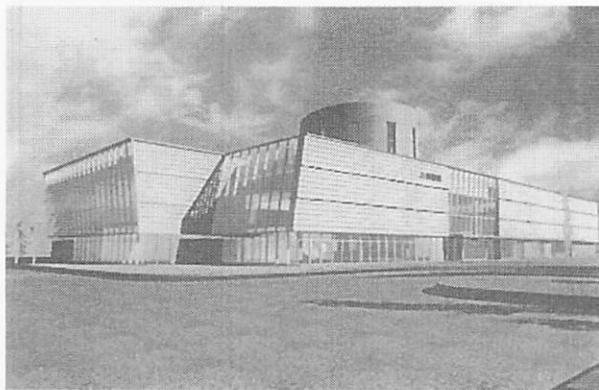


JR新函館駅舎新築

函館駅周辺の土地区画整理事業が進められている中で、現在のJR函館駅舎を新築することとなり、今年六月末に完成し開業することとなった。

新しい駅舎は「函館の新しい文化、情報、交流の拠点」として二十一世紀にふさわしい駅舎とするためにデンマークの鉄道会社の協力を得て計画が練られた。

規模は鉄骨二階建て、約六千三百㎡で一階には弁当や土産物の店とコンビニ、コーヒーショップなど、二階は函館山を眺めるレストランなどが入る。



「函館らしさ」を大切に、駅舎内から

函館山が望めること、ガラス面を多用して函館の夜景に魅力的な「ひかり」を与えること、そして外壁に外光で変化するチタンパネルを使い、見る者にエキゾチックな雰囲気をもたらす。

この駅舎の新築にあわせて駅前周辺道路等も整備し、駅前広場を一・五倍に拡げ、緑を多く配置して潤いのある空間に造りかえる。建設費は三十億円で、完成すれば函館の新しい顔として駅前の面目を一新することになる。

アクロス十字街

十字街再開発の事業として期待されていたビル「アクロス十字街」が十一月に完成し、旧丸井百貨店跡のビルで業務を行なっていた市水道局が入居し、十一月五日から新しいビルで仕事を開始している。このアクロス十字街は、四階建てのビルで全階を水道局が使用している。なお旧丸井のビルは大正十二年に建造され七十九年経過して老朽化が著しく、耐震性の問題もあり水道局の業務にも支障をきたす怖れが生じていた。

このビルは水道局が使用するが、一階部分は店舗スペースに充てられており、主として飲食店が営業を始める。これによって、従来からの元町や十字街のグルメコースに新し店が加わり、観光客の誘致や、十字街の外観の刷新にあわせて、周辺の活性化が期待されている。



末広町に新名所

「ウイニングホール」

オープン

函館市政施行八十周年記念事業として西部地区にある歴史的建造物「旧森屋百貨店」の土地・建物を㈱E.H.(本社大阪府堺市)が取得し、外観を建築当時の姿に復元再生して、新しくアミューズメント施設「ウイニングホール」として建設したものです。

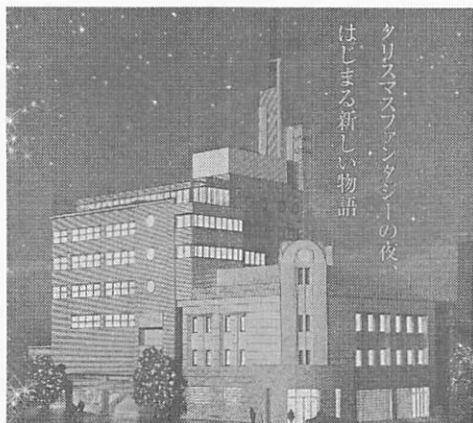
新しい施設は鉄筋コンクリート造りで地下一階、地上七階建て延べ床面積約六千五百㎡。二、三階は「北島三郎記念館」で、これは演歌界の最高峰で函館市榮譽章を受賞した北島三郎さんが「若い頃の情熱を育んでくれた函館へ熱気を」との思いを込めたミュージアムです。四一六

階は三十室規模のホテル、七階は港を見晴らせるレストランとなります。

旧森屋百貨店は、一九二二年(大正十一年)に近代的な百貨店として開業、三十年(昭和五年)に増築し、近くの丸井と並ぶ函館の象徴的な大規模店舗でした。森屋百貨店は三十六年に棒二森屋となり翌年に現在の函館駅前に移転しました。

建物は最近まで尼崎製罐函館工場として使われていましたが、E.H社の深江社長が北島さんと親交がある事から、観光施設としての再生利用する構想となったものです。

函館のウオーターフロント地区に新しいエンターテイメントの施設が登場することで、赤レンガ倉庫群など既存の施設と相乗効果を発揮して、函館観光の活性化に寄与するものと期待されています。



十四年度夏季懇親会

今年の夏季懇親会は八月三十一日(土)午後一時から、定例のホテル「聚楽」で開催。会は福田裕子さんの司会、中村副会長の開会の挨拶で始まった。

まず田沼会長から創立四十周年記念の「郷土訪問旅行」や記念植樹が、会員と函館市・松前町の関係者の協力で滞りなく終わったことに感謝し、あわせて市政八十周年にあたり、道南会が表彰された旨の報告があった。なお市長からの感謝状と記念品、「はこだて未来大学」よりの感謝状が会場正面に飾られた。

また道南会の会員構成が、創立以来の会員の高齢化などで世代交替の時期に差し掛り、今日も十五名の新入会員を迎えて心強い限りであるが、更に新しい会員の増強についての協力要請があった。

続いて井上函館市長の祝辞を酒井東京事務所長が代読。市は「国際水産・海洋都市構想」の推進を図っており各位のご協力を得たいこと。また函館空港ビルが3年後に改築され、JR函館駅舎は十五年秋に完成、十字街再開発ビルも秋に完成予定で、重要な施設が面目を一新するなど、市の現状について披露された。

続いて川守田副会長から各種行事の実施報告があり、一月から八月迄の行事参加者が三九四名に達しており、今後さら

に会員の希望を取り入れながら継続してゆく旨の説明があった。

山根顧問は市政八〇年、母校の弥生小学校創立一二〇周年に当たり、誠に喜ばしい限りで、会の発展と会員のご健勝、ご多幸を祈念して乾杯の発声をされた。

懇談に移り板垣副会長より新入会員の紹介と自己紹介があった。

会場では市政八〇周年記念オリジナルネクタイと、十九世紀の箱館を書いた書籍(UCLAのヘルベルト・ブルチヨウ

教授著)も販売された。

懇親会の中締めは沼崎常任幹事の一本締めで盛会のなか散会した。なお懇親会には函館市よりコブ巻、イカ粕漬、サッポロビールよりビールが寄贈された。

新入会員紹介

- 石川 宏(柏野小) 評論家
- 小熊 勝夫(柏野小) 元小鮫水産社長
- 尾田アツ子(尾白内小) 俵彩の会
- 酒井 哲美(磨光小) 函館市東京事務所
- 佐古 則興(千代ヶ谷小) オフィスワン
- 佐藤 洋(旭岡小) オムニコ
- 澤株 正始(幸小) 岩波書店
- 柴田 英昭(東川小)
- 鈴木 勝浩(昭和小) 五島軒東京事務所
- 高尾 忠良(東川小)
- 中村 崇(七重小) サハリン生まれ
- 野崎 方子(青柳小) 大学婦人協会
- 松永 幹男(恵山小) 昭和三年上京
- 福村 光祐(東川小)
- 若林 英毅(幸小) (株)ソダアクト

平成十四年度

夏季懇親会出席者

- 安達昌子、阿部正身、荒木道雄、池上謹之助、板垣寿見子、石川宏、市川一彦、泉龍夫、上田航、遠藤宏、小熊勝夫、尾田アツ子、笠川雅彦、加藤信利、金子公彦、河口義男、川守田孝平、川守田礼子、

- 木村幹雄、帰山武志、小坂鉄雄、小林寅雄、小林嘉則、小森良彦、小宮山恵三郎、小山光、佐古則興、佐藤洋、斎藤勝美、酒井哲美、佐々木直、佐々木正子、澤株正始、澤株尚子、柴田英昭、島田瑞子、渋谷沙稚子、杉田博子、鈴木勝浩、菅原靖、須藤珠実、瀬田松吉昭、相馬滋、相馬正樹、高尾忠良、高田和扶、田沼修二、田村治雄、田村保子、田村良人、田村房江、田村ひろ子、土橋道子、弦巻鋼男、寺田耕治、長島康、中村隆俊、中村崇、中山泰壽、成田きよえ、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、納代鉄也、野沢澄子、野崎方子、花巻省三、濱本欽彌、早坂茂三、早坂貞子、原ヒエ子、原田美恵子、比嘉裕子、廣部卓也、福島紀福田裕子、福村光裕、藤枝良造、二上達也、古井勝春、堀内洋子、松浦和彌、松原竹造、松永幹男、松前孝廣、松本良子、三國榮顕、葉袋泰、三村寿雄、宮本章次、村山正郎、室谷邦雄、山田克明、山木和子、山下弘治、山根要、吉田房子、若林英毅、渡辺宏司、渡辺多市(ゲスト) 手島孝雄、

『会員プロフィール』

会報の新しい企画として「会員」プロフィールの欄を設けました。会員の経歴や仕事や趣味などを簡潔に書いて頂き、会員相互の理解と親善に役立てたいと願って始めました。字数は二百字程度に纏めて頂く他は、一切ご自由にお書き下さい、皆様のご応募をお待ちしています。

生悔いはない。
娘達は夫々幸せに過ごしており、今は妻はコーラス私は下手なゴルフ、二人で旅行、音楽会等を楽しんでいる。

石田 端 一九三二年函館に生まれ、誕生日が端午の節句で端(タダシ)と命名。難しいのでタンちゃんタンちゃんと呼ばれる。常盤小学校から函館中学(現中部高校)へ、就職はNHK放送記者主に政治部門を担当、最後は日本文字放送社長。古稀も過ぎ現在は独居老人で孫三人。内外の旅、日本記者クラブ、二ヶ所のスイミングクラブで憩う。これから先はドーナ(ル)ンカイ?道南云で憩う!!

阿部正身 松前町白神に生れ育ち、福島商業を卒業。協和(現あさひ)銀行に入行。都内、大阪、神奈川と一〇の店で営業活動を通じロマンある北海道を多くの人に語り、人生の財産となる。店舗業務部に移り昨年三月退職。介護学級に通い免許を取得し、福祉の道を選択。趣味は写真撮影と北海道の資料の収集。家族は妻と音楽を指す長女、保母の次女、料理人の長男。将来は北海道に定住予定。

帰山武志 函館、蓬萊町で昭和十三年に生れ、室蘭、苫小牧と海岸の街に育ち、十七歳で再び函館に戻り日本料理を修業。十九歳のとき上野精養軒でコックの修業中に山とスキーに魅せられ、志賀高原で猪谷氏にスキーの指導を受けた。猪谷氏と共に現在の尾瀬戸倉のスキー場開発のため入山して四十年。氣候が北海道をつくり、何時も憧れの函館の海と港の風景を思い出しています。いまはペンション、スキー、テニスのスクールを経営。趣味は茶道(裏)、社交ダンス、山歩きなど。

荒木道雄 一九二七年函館に生れ、柏野小、函館市立中(現東高)函館水産専門学校製造科(現北大水産学部)を卒業大洋漁業に入社。横須賀工場で鯨、魚各種缶詰製造を習得、缶詰工場、ミール工場、更に大型すり身工船等に乗船し製造部門を担当してきた。会社人生四十年の中二十五年度の乗船歴となる。妻や二人の娘には淋しい思いをさせたが、私の人は

家族は妻と娘二人に娘婿と孫二人、計七人で賑やかに過ごしている。

澤株正始 函館、大黒町の通称壁穴通りに生れ、幸小、船見中、西高と過ごし一浪のあと札幌、東京の大学に進む。人より余計に親のすねをかじったせいで三年遅れの就職。以来、岩波書店に三十五年余、全集や資料集めなどの編集に従事。退職を機に道南会に入会。酒、カラオケ楽器、碁、切手・古銭収集など道楽をしてきたが、定年後は旧南方の文献整理と公務ではない気楽な旅行を楽しみたいもの。仕事柄、郷土史にも関心多々。夫婦共々よろしくお願ひします。

田村治雄 函館の帆影町生れ、幸・弥生小、函工(機械科)卒業。濁川中学校の教員に就職したが寒冷地に合わず、警察官として神奈川県警に転職、主に防犯を担当した。定年退職後の現在は、公園の整備や身障者の送迎ボランティア、自治会文化部役員として活躍中。趣味は登山、中南米音楽鑑賞、囲碁、将棋、マージャン、カラオケ。子供二人は独立して函館出身の妻と二人暮らし。好きな言葉は漫画家の「やなせたかし」さんの「しあわせよ、あわてるな、カタツムリにのって、あくびしながらやってこい」

鳥本玲子 昭和七年、極寒の満州里(マ

ンチュウリ)に生をうけ、のち函館の鱧淵町(たなごまちよう)で育ち、幸小(鼓笛隊大太鼓担当)から函館高女に進み勤労動員にいそしみつつ卒業。札幌女子医専(現札幌医大)では病を得て中退、灼熱の恋も儂く、三年余りで一女を遺して彼は黄泉の國。以来、函館時事放声で十年、上京して(株)アイトー(陶磁器卸業、故に井勘定は大得意)に十余年、退職して現在に至る。高二(男) 中三(女)の孫二人。昔は函館オーシャンの猛烈なファン。清原、工藤が巨人に移ろうと、ひたすら西武のファンです。

納代鉄也 昭和八年函館船見町生まれ弥生から青柳小学校に転校、庁立函館中学に最終生徒として入学、学区制により西高校を卒業。関西の学校に進学後、北海製罐会社に入社、営業の第一線で全国をくまなく回った。二人の子供は独立して妻と二人の生活。根つからのスポーツ好きで、少年野球のコーチを三〇年も続けている。他にゴルフ、旅行、乗馬、パソコン、デジカメと趣味が多く時間がいくらあっても足りない毎日です。

日比野朋子 誕生日は七月二十日。国民の祝日「海の日」。それなのに「空」に憧れ、北海道教育大を卒業後、教師の道を選ばずスチュウワーズに。上空から見下ろす函館の街の美しさは日本一。そ

して今は観光大使です。目下企業研修の講師として全国を飛び回っています。

秋から立教大学で週三回「ホスピタリティ」の講座を受けています。函館も観光都市としてもっとホスピタリティが欲しいと思っています。

古井勝春 函館に生れ育ち中学卒業後

上京。木型の仕事を修業、二十九才で独立。姉（帆船幸子）に奨められ道南会に入会。趣味は二十才で山に魅かれ山岳会に入り暇をみては山行、最近では深田久弥の百名山を目指し七十山を踏破した。川口市民生委員としてボランティアをしている。函館が大好き人間で、年に二回は訪ねたいと願っている。

松前孝廣 昭和六年東京目黒生れ、四谷第六小学校から、港区内のミッシヨン

弥生小学校開校百二十年

川守田 孝 平

私が子供のころ学んだ弥生小学校が、昨年開校百二十年を迎えた。沿革史によると明治十五年四月一日（函館区）公立彌生小学校として、旧富岡町に開校。

校名の由来は「弥生坂の東側に在るをもつて弥生学校と名づく」とあり、また「函館公立学校の第一番なり」とある。

函館の歴史と共に歩んできたこの学校も

系の中、高、大の学院で学ぶ。商社系の輸入自動車販売に携わり、東京、大阪の支店長等歴任。退職後、画廊「松ヶ崎」を主宰、傍ら妻の不動産鑑定業に協力。

松前町観光大使として郷土松前への観光誘致に努力中。趣味は音楽（オペラ）鑑賞と観劇、スポーツはゴルフ。

吉田淑子 昭和二十三年船見町に生れました。育ったのは人見町で、的場中学

では一学級五十五名で十三学級もあり、まさに団塊の世代の真つ只中です。中部高校から国立音大入学（卒業してすぐに結婚、親を嘆かせましたが！）。仕事で首都圏の駅はほとんど下車しています。歩くのが大好きで、何時間でも平気！仕事先を歩いて楽しんでます。読む、話す、食べる、旅行等、今だからできる事を、沢山やりたいと思っています。

時代の移り変りと共に生徒数が減り、近隣の学校と合併の話が出ている。

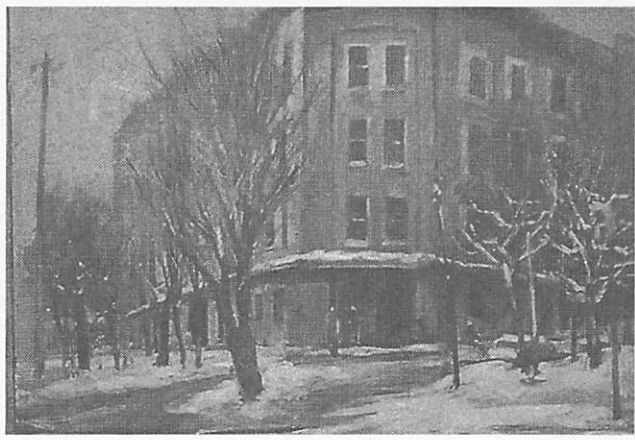
私が入学したのは昭和十四年四月、丁度木造の校舎が鉄筋コンクリート建てに造り替えられ落成したばかりで、真新しい校舎に、真新しい帽子をかぶって校門をくぐった。

男子組と女子組、各二クラスで、二四

〇名の生徒が一年生から六年生まで少年期を過ごし、私は太平洋戦争が終盤を迎えた二〇年三月、弥生国民学校を巣立った。

平成十四年十月十二日、弥生小学校開校百二十年の式典が行なわれた。この日を祝うかのように、秋空が真つ青に晴渡っていた。東京からは十二名の同窓生が参加、会場の体育館には地元の同窓会員や来賓の方々が大勢集まった。

午前十時式典が始まり校長先生他の挨拶などが終わると、全校生徒一五四名が壇上に整列して一言つ言葉繋ぎ、最後に元気な合唱が始まった。精一杯の声



が素晴らしかった。続いて男女生徒混成の金管楽器の演奏に入った。シンバル、フルート、そして大きなホルンが一斉に演奏を始め、見事な力強いハーモニーに感動で胸が熱くなった。

昔の生徒数の二十分の一にも減った学校だが、代わりにこの様な密度の濃い教育が出来るのかと思ひ、演奏する子供達と指揮者の先生に心から拍手を送った。

同窓会便り

◆白百合高校同窓会 五月二十六日

品川プリンスホテル 九十一名

◆東京幸会 十月五日（土）

ベルシー又竹芝 四十名

◆白楊ヶ丘同窓会東京支部総会 十月十八日（金）

ダイヤモンドホール 二〇〇名

◆東京弥生会 十月二十六日（土）

日本橋三越 二十名

◆函館工業高校関東支部同窓会 十一月二十三日（日）

弥生会館 九十名

◆函館遺愛高校同窓会 十二月六日（金） 十時三十分

アイビーホール青学会館

二〇四名

函館が育んだ歌姫「うぐみ」

金子公彦

ステージに上った途端、ばあつと咲いた「ひまわり」のような笑顔で客席を包み込む。感情豊かに言葉をついでいく。初めて彼女の歌を聴いたとき、天性の才能と「うた」を愛する真摯な気持ちが直球で伝わってきた。

「うぐみ」

私の好きなアーティストである。同時に誇れる同郷人の一人でもある。彼女は一九七七年七月、函館に生を受ける。本名は山形夕佳。

祖母がスナックを営むという環境のもと、自然とカラオケに親しむようになりなんと三歳にして地元のカラオケ大会で優勝してしまう。そんな天才少女が、五歳のある日、自分の持ち合わせた特殊な才能に気づく。

絶対音感。因に辞書を紐解くと「任意の音の高さを、他の音との比較無しに知覚しうる能力」とある。分かり易く言えば、耳にした音をピンポイントで言い当てることのできるのだ。

ところが、この才能が友人たちを遠ざけてしまうきっかけとなる。自分の才覚を基準にすべてを取り仕切ろうとする彼女に、周囲がついてこれなかったのだ。しかしながらまだ子供であった彼女に、その辺りを配慮しろというのは酷であつ

たろう。

そのとき孤独を味わった彼女は、生れた才能に封をし「大勢の中の一人」に徹することで、友情を取り戻したのである。

そうして音楽と距離をおいたときに出会ったのがバスケットボールだった。両親と兄がバスケットボールの選手であったのがきっかけで、やがてバスケットボール一色の生活が始まる。その結果、函館中部高校時代には代表選手に選出され主将も務めた。そしてなんとバスケットボール特待生として関西外国語大学へと進むのだ。

しかし大学入学後、練習中に選手生命を絶たれるほどのアクシデントに遭い、耐えがたい喪失感が容赦なく「うぐみ」を苦しめた。

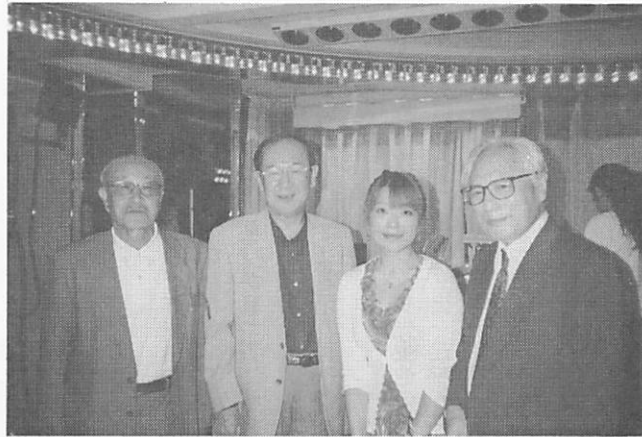
そんな失意のなか彼女は再び音楽と関わりを持つことになる。ひょんなことで軽音楽部に参加することになり、気がつけば欠かせないメンバーになっていた。この時から「うぐみ」はアーティストへの途を歩み始めるのである。

不思議なことに、幼い心に爪痕を残したのも、一方大きな挫折から彼女を救ったのも音楽なのである。

一九九九年二月、先輩の勧めで出場し

た文化放送のスーパーオーディションで優勝、「デビューへの切符を手にする」。

その後、ファーストCD「H.A.S.U」に収められている「夏になろう」が二〇〇〇年夏の甲子園高校野球番組で挿入歌に選ばれ、シンガーソングライターとしての実力が認められた。また二〇〇一年には観客動員数記録を塗り替えた「千と千尋の神隠し」のイメージソングを歌う幸運にも恵まれる。さらに二枚目のCD「うれしる。け」の収録曲「うれしる。け」が阪神タイガースの二〇〇二年春季キャンプのテーマソングに選ばれた。他にもラジオやテレビ番組のレギュラー出



演、幼稚園や老人施設でのボランティア活動など着々とフィールドを広げ、最近では子供向けミュージカルも手がけている。この二月にはTBSの日曜朝の番組「笑顔が一番」への出演も決まっており、現在は大阪から東京へと活動拠点を広げて全国的に活躍している。なお、二〇〇二年秋には三枚目のCD「みんな」をリリースした。

たった四半世紀の人生のなかで、心の経験を積んだ彼女にはオーラがある。なかでも、挫折を知った彼女の「うた」には説得力がある。そして「うたは人を癒す」ことを信じて止まない彼女の澄んだ声に、私たちは癒される。未だ彼女の「うた」を知らない人は、一度でいいから聞いて頂きたい。

この歌姫は決して期待を裏切らないことを保証する。個人的な願いとしては、しっかりと音程、語学力とリズム感のある彼女に、ジャズを歌ってもらいたいというのが私の夢でもある。叶う日がくるであろうか。

(井上函館市長や二上達也さんと「津軽海峡クルーズ」の船内での「うぐみ」)

(うぐみ後援会長)

東京地方松前会の五十年

弦巻 鋼 男

松前城炎上

昭和二十四年六月の新聞に、史蹟の奉行所からの飛火で松前城焼失の写真入の記事が載った。全国の松前出身者はただ唖然として失望の念を覚えた。

当時、東京で活躍していた永井一郎、

従二建二、前司法大臣の岩田宙造、書家の金子鷗亭など、松前出身の方々が心配して早速、松前町と連絡を取り、松前城再建の運動を展開した。そこで二十七年に準備委員会を発足させ「東京松前人会」の名で呼び掛けた。この松前城再建には北海道内外から強力な支持が集まり、昭和の築城の原動力となった。

松前藩士江戸を歩く

「江戸の町を歩く会」では徳川將軍十五代に因み、松前藩を含む十五の旧藩を選び江戸の町を歩く企画を立てた。

平成元年六月、松前町から二十名、東京松前会から五十名が、袴姿や甲冑姿に身を固め、大名行列に扮して江戸松前藩下屋敷のあった両国国技館を出発。両国橋―柳橋―浅草橋を経て松前藩上屋敷のあった三味線堀に至り、更に上野不忍の池―湯島天神―神田橋門―清水橋門―北の丸公園まで十二軒を行進した。沿道の観衆から大拍手で迎えられ、旧松前藩の

心意気を見せた。夜は東京ドームナイターの入場者に松前漬やスルメを配って、松前を売り込んだ。

亀戸香取神社の松前櫻

亀戸香取神社の門前で中華料理店を営む川畑行夫さんは、松前町の白神小学校に通い、城の八重桜に魅せられていた。二十二才で上京、修業を積んで香取神社前に店を持った。調理師免許を取得するために必要な卒業証書を取るため、白神



小学校と交流が始まり、川畑さんは生徒に文房具を送り、子供たちから櫻の苗木十五本が贈られた。

その中から十本を神社の境内に、五本を亀戸駅前に植え、その後も何回か苗木が贈られ、三十年たった現在、見事な松前櫻が咲き誇っている。東京松前会は道南会や上磯会の有志と図って「松前櫻を観る会」を今年も行なう計画である。

東京松前会五十周年記念祝賀会

十一月十七日、帝国ホテルの櫻の間で創立五十周年を記念する祝賀会を開催した。松前町松尾助役、松前家の旧藩主をはじめ百余名が参会。思い出を語り再会の喜びを共にし、松前追分節などを楽しみ、最後に全員で「星影のワルツ」を合唱して散会した。この席に堀北海道知事から寄せられた祝電に次の句があった。

「一里は みな花守の 子孫かな」

(東京松前会会長)

宇江佐真里さんに

「函館市文化賞」

函館を離れずに江戸下町の人情話を書き続ける宇江佐真里(本名伊藤香)さんに函館市文化賞が贈られた。

宇江佐さんは平成七年にオール読物新人賞、十二年に吉川英治文学新人賞、十三年に中山義秀文学賞を受賞したほか、

五回も直木賞候補に挙げられるなど全国的にも高い評価を受けている。

また最近では函館を題材にした「おうねえすてい」「酋夷列像」など地元目を向けた作品も発表している。函館に居住する全国的に著名な作家として活躍を続け、函館市の文化の向上発展に貢献していることが評価され、十一月三日「函館市文化賞」が増呈された。

「東京上磯会」総会

平成十四年の東京上磯会の総会は十一月十六日(土)午後、霞ヶ関の飯野ビル九階「キャッスル」で開催された。三百名の会員中一〇〇名余が出席、郷里から海老沢町長も出席して郷里の現況などを報告した。会は相馬正樹氏のとを受けて郷内繁氏が新会長に就任し、平成十六年の第十回大会に向けて会の一層の充実を図りたいと挨拶。乾杯に続いて懇談に移り、地元の話などが披露され、和氣靄々の語らいが続いた。

道南会行事報告

平成十四年後半の行事報告です。

☆「サツポロビル千葉工場見学会」

七月二十七日(土) 午後一時

津田沼駅に集合、バスで工場へ。最新設備のビール製造工程を見学後、猛暑の季節の中で、出来たての生ビールに舌鼓を打った。参加者三十名。

☆「道南会夏季懇親会」

八月三十一日(土) 午後一時より

「ホテル聚楽」で開催。(詳細別掲)

☆「コスモス鑑賞会」久里浜公園

九月二十八日(土) 雨天中止

道南会新年総会

平成十五年の新年総会を次の通り開催いたします。

一、一月二十五日(土) 午後一時

(受付開始十二時三〇分)

二、場所 プレスセンターホール

(プレスセンタービル・十階)

地図別添)

三、会費 八〇〇〇円

(別に年会費四〇〇〇円)

四、一月二〇日迄に同封の葉書に記入

投函して下さい。



☆『特別行事ハイキング』
巾着田の彼岸花

十月三日(木) 山に詳しい川守田副会長をリーダーにハイキング好きの十三人が彼岸花(曼珠沙華)の自生地としては日本一の、約百万本と言われる秩父に近い巾着田近辺を散策した。数日前の台風で彼岸花は散りつつあったが、深紅の絨毯を堪能した。

その後、高麗峠に登り途中で昼食を取り更に天覧山に登った。山頂で小森会員持参の茶道具一式で、素晴らしい野点を味わった。自然豊かな巾着田と奥武蔵の情景が良い思い出となった。

☆「皇居参観」

十月三十日(水) 午後一時桔梗門集合
宮内庁係員の説明を受けながら、宮内庁庁舎、長和殿を始め江戸城の面影を偲ばせる庭や石垣を二時間かけて参観した。やや紅葉の始まった森閑とした皇居の内苑は、大都会の真中とはとても思えない別世界の感があった。参加者三十六名。

☆「横浜港の見える丘公園」散策

十一月二十二日午前十時半、JR石川町駅集合。駅裏手の坂道を上り高級住宅や名門の大学の連なる山手地区を散策。異国情緒溢れる外人住宅や外国人墓地、「大仏次郎記念館」を参観したあと「港



の見える公園」から「山下公園」などを通り中華街へ。島田会員のお世話で本場の飲茶(ヤムチャ)料理を堪能して流れ解散、ご婦人方は元町商店街へ。参加者は二十名であった。



会報「道南」十五年新年号

発行 平成十四年十二月二十四日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦四一九一

十三八〇三 川守田 氣付

印刷所 ㈱ソーラン社

中央区日本橋小伝馬町十六一八